

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	さいたまけんりつふどうおかこうとうがっこう				②所在都道府県	埼玉県
27～31	①学校名	埼玉県立不動岡高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	在籍者総数 1097名	
	普通科	326	325	323	—	974	普通科（各学年8学級）974名
外国語科	41	42	40	—	123	外国語科（各学年1学級）123名	
⑥研究開発構想名	明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	埼玉県北部及び隣接地域の課題に対する探究学習を、全校生徒を対象に、Fプラン、SG課題研究、異文化理解、SGCで実施。その成果を国際会議や海外の高校・大学で提案・議論することで、リーダーとしての資質を育成する。また、教育課程の特例科目新設や指導方法の研究を通して、リーダー育成に資する指導法・プログラム開発を行う。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>グローバル化が進み、「正解のない世界・不完全な世界」となった現代では、リーダーとして、①異なる価値観を受容し、新たな価値観を創造できる人材、②自ら課題を発見し、他者と協働しながら解決する人材、③自らが生まれ育った地域や文化に対する深い理解と誇りを有する人材、④異なる価値観を持つ他者との摩擦を恐れることなく、調整できるタフさのある人材が求められている。</p> <p>本校のSGHでは課題研究等を通してこれらの能力を有する人材を育成するとともに、教育課程の特例等も活用しながら、リーダー育成に資するカリキュラムや教材の研究開発を行う。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>現状： 本校の生徒は、①主体性に欠け指示が与えられるのを待つ、②失敗を恐れるあまりリスクを負うことを避ける、③他者とのぶつかりあいをさけるなどの傾向が見られる。これらは、「内向き志向」と言われるわが国の高校生の標準的な像とほぼ同一と考えられる。</p> <p>仮説：Ⅰ 自ら課題を設定し、他者と協働して調査・探究を行う授業を展開することで、主体的な学びが喚起される。また、学びの深化と質の向上を図ることで、学習意欲や好奇心が涵養され、自発性や責任感を有する人材が育成できる。</p> <p>Ⅱ 校外、海外で活動を行うことで、自分とは異なる背景を持つ他者と交わることができる。既知の価値観とは異なる価値観を体験することで、自己の学習観や人生観の見直しと、精神的なタフさと新たな価値観の創造が期待できる。</p> <p>Ⅲ 本校でこれまで取り組んできた様々な教育活動を整理・再評価し、それらを有機的に結びつけることによって、生徒の思考力を高め、総合的かつ効果的な発信力を有する人材を育成することができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる成果報告と、SGH活動の普及・啓発 ・報道機関（マスコミ）を活用した広報活動 ・SGH指定校の連携ネットワークによる情報交換 ・開発単位ごとの研究発表会の実施（公開） ・研究成果発表会（全校）の実施（公開） ・獨協インターナショナル・フォーラム（獨協大学国際交流センター主催）や、iEARN、JEARN及びJUNEC主催の国際青年会議等での研究成果発表・政策提案。 					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 埼玉県北部及び隣接地域の課題を以下の3分野5項目に分類し、課題研究を行う。 Ⅰ 環境との共生 (①ゴミ問題・リサイクル、②エネルギー問題) Ⅱ 他者との共生 (多文化共生) Ⅲ 地方創生 (①伝統文化と地方創生、②少子高齢化と過疎への対策)</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 ア～オのSGHプログラムを、平成27年度入学生より年次進行で実施する。 ア) Fプラン (1年：全員) SGH基礎講座、グローバル課題を論題としたディベート学習 イ) SG課題研究Ⅰ (2年：普通科文系・外国語科) 地域課題の調査研究、海外派遣事業 (プレゼン、ディスカッション等) ウ) SG課題研究Ⅱ (3年：普通科文系・外国語科) 地域または国際課題の調査研究 海外派遣事業 (アクションプランの策定・協働による実践) エ) 異文化理解Ⅰ・Ⅱ (2・3年：外国語科) マレーシアに特化した課題研究、地域の魅力発信研究 海外派遣事業 (内容はイ・ウに準じる) なお、上記ア～エの活動の充実を図ることを目的とし、校外 (大学や研究機関) での講義受講やワークショップ参加について、所定の時間を超えて受講等した者を単位認定する学校設定科目 (SG 不動岡アカデミー) を新設する。 オ) スーパーグローバルクラブ (SGC) (全年次：希望者) 個々に設定した課題に対する研究及び各種大会 (模擬国連・ディベートコンテスト) 出場に向けた活動 主な検証評価方法は、①討論・質疑などの言語活動の記録、②研究の過程・成果などの記録を集積したポートフォリオ評価、③研究成果発表会などの実施による保護者や地域の人々による第三者評価。その他各取り組みに応じて、適切な評価方法を策定。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 ・教育課程の特例は必要としない。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 各教科の学習活動により、グローバルリーダー育成の一端を担う、各教科の基礎知識を学ぶとともに、レポート作成や課題研究、ディベート等に取り組むことで、知識の運用能力を高め、他者と協働しながら学習を深化することを目指す。国、地歴公民、数、理、体、芸、外国語、家、情の全教科において、全校体制で実施する。 主な検証評価方法は、①定期考査や提出レポート、②生徒対象の授業評価アンケートの実施・分析による社会貢献等に対する意識変化の検証。その他、各取り組みに応じて、適切な評価方法を策定。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 教育課程の特例は必要としない。</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ・海外の姉妹校への短期派遣留学と留学生の受け入れ (豪・中) ・コリブリエットネットワークを活用したフランス語圏への生徒派遣と留学生受け入れ ・校外各種コンテストへの積極的な参加 ・「高い志」育成事業 (埼玉県教委主催) への積極的な参加</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校はスーパーサイエンスハイスクール (SSH) に指定されており、すでに理数系分野においては、大学や研究機関とも連携しながら、先進的な課題研究 (SS 課題研究・2年次理系) に取り組んでいる。こうしたSSHの取り組みで培われたノウハウとSGHのプログラムを融合させることにより、より質の高い課題研究活動が期待される。</p>

ふりがな	さいたまけんりつふどうおかこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	埼玉県立不動岡高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	550人
	SGH対象生徒以外:	39人	68人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 課外における社会貢献活動や自己研鑽活動に自主的に参加した生徒。在籍生徒の5割を目標とする。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	110人
	SGH対象生徒以外:	53人	80人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 個人や団体、学校主催かそうでないかを問わず、海外留学・研修に出る生徒の人数。全生徒の1割を目標。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	11.80%	14.90%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 現状の割合から鑑み、約3倍に増加させる。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	17人	21人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 全県レベル以上の公的な団体、機関からの表彰を受けた生徒。倍増を目指す。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	25%
	SGH対象生徒以外:	4.60%	5.20%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 実用英語検定2級以上、TOEIC 550以上、TOEFL ibt 57以上。在籍数の4分の1以上の生徒に取得させる。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		47.60%	41.40%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGU、グローバル人材育成推進事業指定大学等、国際化に重点を置く大学等へ進学する生徒の割合。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		1人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外大学との連携に刺激を受けた生徒を志望させる。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 卒業する生徒全員に影響を及ぼすよう、質の高い課題研究を実施する。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	180人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 学年の5割の生徒が留学・海外研修に出るよう、動機付けをする。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	28人	47人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方: 学校で企画する海外研修以外の生徒も含め、在籍生徒の1割程度を目標とする。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	66人	92人	人	人	人	人	人	200人
	目標設定の考え方: 授業時間中の校内における研修会を除いて、研修に参加した人数。倍増を目指す。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	2校	3校	校	校	校	校	校	10校
	目標設定の考え方: 海外研修のフィールドとなる国すべてにおいて、大学、高校とそれぞれ、連携する。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	52人	48人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方: 異文化理解、SS・SG課題研究、SGC等で外部講師として呼ぶ人数と回数。倍増を目指す。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	20人	16人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方: 異文化理解、SS・SG課題研究、SGC等で外部講師として呼ぶ人数と回数。倍増を目指す。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	20人	30人	人	人	人	人	人	80人
	目標設定の考え方: 1-dの目標値実現のために、倍の数の生徒を参加させる。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	26人	4人	人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方: 本校に籍のない外国人で、校内・校外の組織団体を活用して受け入れた人数。							
h	先進校としての研究発表回数							
	2回	2回	回	回	回	回	回	5回
	目標設定の考え方: 全校規模以上(他校との連携を含む)で実施した研究発表回数。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
	目標設定の考え方: 現段階では一部しか整備されていないが、27年度にはSGHのページはすべて英語版を整備する。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,098	1,093	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							